令和６年 第１９回渋谷区教育委員会定例会会議録

１　開会日時　　　令和６年１０月３日（木）午前１０時００分

２　閉会日時　　　令和６年１０月３日（木）午前１０時４０分

３　場　　所　　　渋谷区役所４階教育委員会室

４　出 席 者

（委　員）

教育長	伊藤　林太郎	委　員	平岩　国泰
委　員	田丸　尚稔	委　員	松本　理寿輝

（事務局職員）

教育委員会事務局次長	篠原　保男
教育政策課長	齋藤　貢司
未来の学校担当課長	堀江　崇
未来の学校担当課長	岡部　尚徒
学務課長	横手　麻理
教育指導課長	安部　忍
教育センター所長	間嶋　健
地域学校支援課長	山口　勝

（書　記）　　島田　直子　　　谷口　彩香

５　会議の概要　　　別紙のとおり

報告

（１）令和７年度渋谷区立幼稚園・渋谷区幼保一元化施設園児募集について

［資料１：令和７年度渋谷区立幼稚園・渋谷区幼保一元化施設園児募集について］

（２）令和６年度全国学力・学習状況調査結果について

［資料２：令和６年度全国学力・学習状況調査　― 渋谷区立学校の状況 ―］］

その他

（１）児童・生徒等表彰について

議事運営等
〇 令和６年第１９回教育委員会定例会を開会
〇 議事録署名に田丸委員を指名
〇 大日方委員、加藤委員が欠席

■ 教育長報告要旨
〇まず、９月２１日に代々木中学校の新入生向け学校説明会が開催された。来年度入学する生徒は、２年生の夏休み明けから西原キャンパスで過ごすことになる。説明会には事務局職員も参加し、西原キャンパスの魅力などを伝え、安心して入学できるよう説明した。次に、９月２５日に国立競技場で、中学校陸上競技大会が開催された。当日は、運動をするには快適な気温となり、男子１００ｍ走、女子高跳び、リレー競技男子・女子の計４種目で新記録が出た。また、８校それぞれの声援が響き、会場を盛り上げていた。最後に、９月１７日から令和６年第３回区議会定例会が開催されている。本会議において、私には７人の議員から１８件の質問があった。「未来の学校」における施設開放運営委員会の在り方や不登校対策における人員体制の強化、部活動改革に関する質問などがあった。

◆報告１
令和７年度渋谷区立幼稚園・渋谷区幼保一元化施設園児募集について
--◇説明要旨 --
（※別紙資料１に基づき学務課長が説明）
〇令和７年度渋谷区立幼稚園・渋谷区幼保一元化施設園児募集について報告する。初めに、「１　入園資格」についてである。区内居住者で保護者が園児を送り迎えできることとし、４歳児及び５歳児について記載している。次に、「２　幼稚園募集人員」についてである。各園の募集人員は、表のとおりである。４歳児は定員の３０人、５歳児は定員の３５人から９月１日現在の４歳児の在園児数を差し引き、人数を設定している。なお、本町幼稚園については、令和６年度末の令和７年３月に閉園するため、令和７年度の幼稚園の園児募集は、臨川幼稚園と広尾幼稚園の２園のみである。次に、「３　預かり保育」についてである。在園する園児であれば、事前申込みにより、保護者の就労の有無に関係なく利用できる。次に、「４　幼保一元化施設募集人員」については、表のとおりである。幼保一元化施設５歳児については、３月の時点で空きがある場合のみ、子ども家庭部にて追加募集を行う。次に、「５　申込み」についてである。１０月１６日及び１７日の両日、入園を希望する幼稚園又は幼保一元化施設において申込みを受け付ける。次に、「６　入園児検診」については、記載のとおりである。最後に、「７　対象者への周知」についてである。区ニュー

ス１０月１日号及び区ホームページに掲載するとともに、１０月１日から募集案内を各窓口などで配布する。また、今年度は園児募集の動画を作成して、渋谷区子育てネウボラや各出張所のデジタルサイネージでも周知している。

－－◇質疑応答　－－
〇なし。

－－◇議事結果　－－
〇了承する。

◆報告２
令和６年度全国学力・学習状況調査結果について
－－◇説明要旨　－－
（※別紙資料２に基づき教育指導課長が説明）
〇令和６年度全国学力・学習状況調査結果について報告する。本調査は、国においては義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、また、学校においては児童・生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てることを目的として実施している。令和６年度は、小学校第６学年の児童及び中学校第３学年の生徒を対象として、４月１８日に実施した。実施した教科は、小学校は、国語と算数、中学校は、国語と数学の２教科である。調査問題は、現行の学習指導要領において「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という３つの柱からなる資質・能力と整理され、これらは相互に関連し合いながら育成されるという考え方であることから、「知識」や「活用」を一体的に見る調査問題として構成されている。今年度の調査結果は、小中学校ともに全教科で東京都と全国の平均正答率を上回る結果となった。まず、小学校の結果についてである。国語の正答数が０問から４問だった児童の割合は、都より０．４ポイント、全国より０．５ポイント上回っており、国語については下位層が都と国より多い結果となった。算数の正答数が０問から４問だった児童の割合は、都より１．５ポイント、全国より３．８ポイント下回っており、算数については下位層が都と国より少ない結果となった。次に、中学校の結果についてである。国語の平均正答率については、都に比べ１ポイント、全国に比べ３．９ポイント上回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点及び「書くこと」「読むこと」の２領域において、都と国の平均を上回る結果となった。数学の平均正答率については、都に比べ１ポイント、全国に比べ５．５ポイント上回っている。「知識・技能」「思考・判断・

表現」の両観点及び「数と式」「図形」「関数」の３領域において、都と国の平均を上回る結果となる一方で、「データの活用」の領域については、都の平均を下回る結果となった。今後、各学校は今回の結果を踏まえ、教育大綱に示されている、子供が自分のペースで学ぶことや、自らの学び方を選択できる授業、伴走者としての教師の役割の観点から授業方法等を見直すとともに、学習者用デジタル教科書やＡＩ型デジタル教材の活用を通して個別最適な学びの実現やＴｅａｍｓ等のコミュニケーションツールを活用した対話的・協働的な学びの一層の推進に向け、学校に助言・支援を行っていく。次に、児童・生徒質問紙調査の結果概要についてである。「前学年までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか」という質問について、「ほぼ毎日」と回答した割合は、小学校が４８．３％、中学校が４９．７％で、都と国に比べて大きく上回る結果となった。「前学年までの学習の中で、ＰＣ・タブレット機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか（１）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」という質問について、「とてもそう思う」及び「そう思う」の肯定的な回答の割合は、小学校が８３．６％、中学校は７２．６％で、都と国を下回る結果となった。「前学年までの学習の中で、ＰＣ・タブレット機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか（３）楽しみながら学習を進めることができる」という質問について、中学校において肯定的な回答をした割合は７２．３％で、都と国を大きく下回る結果となった。これ以降のタブレット活用に関する質問についても、特に中学校は都と全国を下回る結果となった。以上、タブレット活用における質問の回答結果から、タブレット端末の使用頻度や利用時間は大きく伸びている一方で、具体的な活用に課題があることが分かった。要因としては、紙がデジタルに置き換わっただけのいわゆる「デジタル一斉授業」に留まっている教員が一定数存在していること、特に中学校はその傾向が強く残っていることが考えられる。今後、校園長連絡会や職層研修、指導課訪問、渋谷区教育ＩＣＴアドバイザーによる訪問指導等を活用し、子供が主体的にタブレット端末を活用した学びが充実するよう授業改善を進めていく。続いて、「前学年までに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の肯定的な回答の割合は、小学校が８７．６％、中学校は８５．４％で、都と国を上回る結果となった。「前学年までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問について、肯定的な回答の割合は、小学校が８２．６％で、国をやや下回る結果となった。一方、中学校は８２．２％で、都と国をやや上回る結果となった。「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学

習につなげることができていますか」という質問について、肯定的な回答の割合は、小学校が８２．４％、中学校は８１．６％で、都と国を上回る結果となった。以上の結果から、子供主体の学び、探究的な学びが実現しつつあるものの、子供自ら誰と学ぶか・どのツールで学ぶか・どれくらいのペースで学び進めるかといった学び方が選択できるなど、主体的に学習する授業改善を更に進めていく必要があると考える。続いて、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の肯定的な回答の割合は、小学校が８８．８％、中学校は８６．１％で、都と国を上回る結果となった。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問について、肯定的な回答の割合は、小学校が９１．８％で、都と国を上回る結果となった。一方、中学校は８９．１％で、都をやや上回ったものの国をやや下回る結果となった。「困りごとや不安がある時、先生や学校にいる大人はいつでも相談できますか」という質問について、肯定的な回答の割合は、小学校が７４．５％で、都と国を上回る結果となったが、中学校は６７．３％で、都や国とおおむね同じ結果となった。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問について、肯定的な回答の割合は、小学校が９５．１％で、都と国をやや下回る結果となり、中学校は９５．４％で、都をやや上回る結果となった。以上の結果から、おおむね子供たちは安心して学校に通えていると捉えている。都スクールカウンセラーに加え、区スクールカウンセラーを週１日の全校配置にしたことが要因の一つだと考える。引き続き、子供が安全・安心に通える学校づくりを支援していく。最後に、探究的な学びや、タブレット端末の活用に関わる質問紙調査と平均正答率のクロス集計結果についてである。「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問について、小学校では、肯定的な回答をした児童の平均正答率が高い傾向にあった。一方、中学校においては、質問紙調査と教科の平均正答率との関係は見られなかった。「前学年までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか」という質問について、小中学校ともに、「ほぼ毎日」「週３回以上」といった使用頻度が高い児童・生徒は教科の平均正答率が高い傾向にあることが分かった。「前学年までの学習の中で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか（１）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」という質問について、小学校においては、使用頻度が高いほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。一方、中学校においては、特段の傾向は見られなかった。「前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問について、小中学校ともに、肯定的な回答をした児童・生徒ほど、平均正答率が高くな

る傾向が見られた。「前学年までに受けた授業では、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問について、小学校においては、「当てはまる」を選択した児童の平均正答率が最も高くなる一方で、「当てはまらない」を選択した児童の平均正答率も高い傾向にあった。一方、中学校においては、肯定的な回答をする生徒ほど、平均正答率が高くなる傾向が見られた。以上のクロス集計結果から、総じて、主体的に学びを進められている児童・生徒の平均正答率が高くなっている傾向があった。調査結果及び分析を踏まえ、教科学習、探究シブヤ未来科の学習において、子供自ら自分の学び方を選択するなど、主体的に学習に取り組める授業に向けた研修の設定や指導課訪問等を活用した学校への指導・助言を行っていく。

ーー◇質疑応答　ーーー

（松本委員）

○まずは、子供たちが楽しく学校に行くことができ、相談しやすい環境を作ってくださっている先生方に感謝申し上げる。ただ、下位層（正答数０～４問）の割合が、都と国の平均より多い教科があるのが気になる。背景が分かれば教えてほしい。

（教育指導課長）

○全体では調査結果は良好だが、少人数教育はあるものの、個々の学習状況に応じた支援がうまく行き渡っていないようである。

（松本委員）

○気力がないのかなど、渋谷区の傾向を知りたい。

（教育指導課長）

○様々な要因が考えられるが、家庭環境・個性・非認知的な学びの意欲も関係していると思う。

（松本委員）

○引き続き、個別最適に、一人一人の子供の環境を丁寧に見守る必要があると思う。

（田丸委員）

○大前提として、この調査結果はとても参考になるので、今後に役立てていきたい。中学校の「楽しみながら学習を進めることができる」の質問について「とてもそう思う」「そう思う」が全国平均より１０％下回っているが、想定され

る理由はあるか。

（教育指導課長）
〇受験のための勉強となって、学ぶ楽しさが十分に味わえていないのかもしれない。

（田丸委員）
〇遊びの要素が主体的な学びを促進するという研究結果があるので、楽しくチャレンジできる環境を作ってあげられると良いと思う。データが出てきたものに対して、教員はどう思っているのかをまとめる予定はあるか。

（教育指導課長）
〇各学校には自校のデータがあるので、生かしていくものと思う。客観的なデータの一つであり、子供たちの学ぶ姿と合わせて振り返りを行っていく。また、指導課訪問においても実態はどうかを見ながら活用していきたい。

（田丸委員）
〇先生方の意見は貴重であるので、併せて分析できると良いと思う。縦断的な年度対比をしたものはあるか。

（教育指導課長）
〇過去に遡っての経年変化も教育指導課で確認して分析している。

（田丸委員）
〇教育指導課で見て分かったことはあるか。

（教育指導課長）
〇「相談できる大人がいる」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」が向上している。

（田丸委員）
〇探究学習の狙いが表れていると感じる。教育大綱の７つの力が育まれているかどうかも調査で見られると良い。「共感」「創造」はこのデータからは見えないので、検討をお願いしたい。

（平岩委員）
〇全般的にこれまでの中で一番良い結果となっており、良かった。小学校の国語

の下位層が気になる。タブレットは毎日１００％利用を目指したい。学びへの意欲やシブヤ未来科を充実させるために、国語・算数・数学の基礎学力を伸ばしていけると良い。今年と来年の違いで、シブヤ未来科に本格的に取り組んで何が変わるのかが分かるため、来年の結果が注目ポイントとなる。「自分に合った教え方になっていない」と答えた児童は、正当率が高い。授業が遅いと感じている子もいると考えると上位層はもっと伸ばせると思う。不登校の減少とも結びついてくると良い。現場とのディスカッションも重要で、私たちもいつか聞けると良いと思う。

（教育長）

○指摘いただいた部分を踏まえて、今後の教育にデータを生かしていきたい。

--◇議事結果　--

○了承する。

◆その他

（１）児童・生徒等表彰について

--◇説明要旨　--

（教育政策課長）

○令和６年度渋谷区教育委員会児童・生徒等表彰の概要について説明する。本年度も、児童・生徒等の優れた能力や努力を称えることにより、自信と誇り、また、学校生活への活力等を育むため、表彰を実施する。表彰の対象は、区立幼稚園・小中学校に在籍する児童・生徒等及び私立幼稚園・小中学校等に通う区内在住の児童・生徒等のうち、全国規模の部活動、クラブ活動等の大会やコンクール等に出場・出品するなどの成果を上げたものとし、区立に関しては、学校長等からの候補者の推薦に基づき、私立等に関しては、児童・生徒本人又は保護者からの推薦書に基づき、それぞれ調査を行った上で、受賞者を決定する。なお、昨年度は、区立５５人、私立５人の合計６０人と、２団体が受賞している。今後のスケジュールについて、昨年度は審査件数が１００件を超え、審査に時間を要したことから、今年度より区立学校等は推薦期間を２回に分けることとし、現在、関係者等への周知に向けた準備を進めている。被表彰者の決定については、２月の教育委員会に議案として提出させていただきたい。

--◇質疑応答　--

（田丸委員）

○「目的」に「能力」・「努力」とあるが、結果に焦点が当たっている。結果以外

の別の観点からの評価はあるか。

（教育政策課長）
〇結果に至るまでに努力が内在されているので、現時点では結果を評価している。

（田丸委員）
〇スポーツ・部活動は、勝利至上主義ではないので、友達と楽しくやるコミュニティーづくりも評価できないか。質的なものなので基準を決めるのは難しいが、結果だけではなく、努力した過程や成長を評価してあげられるよう検討してほしい。

（教育委員会事務局次長）
〇学校活動の中だけでなく、学校活動外で成績を収めている子も多く、学校で全てを把握・対応するのは難しいため、児童・生徒等表彰を行っている側面もある。

（平岩委員）
〇毎年「努力」についての話は出るが、現実的に表彰対象とするのは難しい部分がある。学校・家庭で、通知表に当たるものからフィードバックしたり、最終的には自分で評価したりできるようになるとすばらしいが、今年度については、このままで良いと思う。なお、今年度から推薦期間を２回に分けるなど、毎年少しずつ改善が見られるのはとても良いと思う。

議事終了　閉会

上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長　伊　藤　林太郎

委　員　田　丸　尚　稔